

和歌山県由良町衣奈における住民参加型の事前復興計画策定手法の構築  
 Participatory Pre-disaster Development Planning and Management in Ena, Wakayama Prefecture

○金玟淑・牧紀男・佐藤克志・田中秀宜・岸川英樹

○Minsuk KIM, Norio MAKI, Katsushi SATO, Hidenori TANAKA, Hideki KISHIKAWA

This study is to clarify a method of pre-disaster development planning through the residents' workshop in Ena, Yura-cho, Wakayama prefecture. We held three times of residents participatory workshops and performed two times disaster prevention class in Ena elementary school in 2015. This paper deals with two aspects of planning, how ideas of residents are compiled into a plan, and how a feasible plan is established. Planning scheme was used for the pre-disaster development planning of Ena (draft) which consisted from 1 goal, 5 objectives, 12 policies were established through residents workshops.

## 1. はじめに

本研究は、南海トラフ巨大地震が予想される地域において災害前から地域の再建をいかにすべきかと考えるものである。そのため、行政からのトップダウンの復興まちづくりではなく、住民参加型での復興計画策定のあり方を提案する。

筆者らは 2014 年度に和歌山県内の漁業集落 94 か所を対象に本研究に適したモデル地区選定作業を行った。選定基準は漁港種別、流通拠点、集落の立地環境（平地/傾斜地/河川）、津波高、地域の元気度、地域コミュニティ、防災活動、漁業の状況である。特に、本研究では地域の将来の持続可能性も重要な要素であるため、地域の元気度、地域コミュニティ、漁業の状況（今後の活動見込みを含めて）が良好である和歌山県由良町衣奈をモデル地区として選定した。2015 年 7 月にはキックオフ講演会「衣奈の防災を考える」を開催し、9 月、11 月、12 月に住民ワークショップを開催した。また、衣奈小学校でも 2 回出張授業を行った。

ここでは、衣奈住民のまちに対する過去から現在、そして将来への「思い」を反映しつつ、より実効性の高い計画策定にむけた事前復興計画策定のプロセスおよび課題について分析を行う。

## 2. 実効性の高い計画策定のための工夫

(1) 参加者の年齢層：衣奈の住民ワークショップでは 40 代から 70 代までの住民が参加した。事前復興計画は 20~30 年後のまちの再建のあり方を考えるものであるが、他の事例でもワークショップなどの参加者の年齢層が高いのが指摘されて

いる。また、衣奈住民に向けた事前説明会を開いた際にも若い人の参加を促すべきという意見があったため、衣奈小学校にて出張授業を行い、児童らのまちに対する将来像を住民ワークショップで披露し、情報を共有した。

(2) 住民の多様な思いを計画にする：

地域の宝（資源）に関しては、過去・現在において優れているもののうち、将来にも残したいものについて話しあったり、それらを継承するに於いての課題を抽出した。また、行政が決めた津波浸水ラインだけでなく、津波浸水被害想定への正しい理解を通じて、将来のまちづくりに必要な浸水ラインを投票を通じて住民自ら選ぶことを試した。

最初の第 1 回と第 2 回のワークショップでは、各グループにおける各々のアイデア生成を重視したが、そのままでは計画としてまとまらないので、筆者らは 2 回のワークショップで出たアイデアを整理し、構造化させた。第 3 回のワークショップでは、筆者らが整理した衣奈まちづくり（案）—1 つの全体目標のもとに 5 つの課題、12 つの方針を住民にみせ、素案に対する合意を得た。その後、4 つの重点課題を投票にて決め、話し合いの上、課題に対するアイデアを深めた。

表1 衣奈ワークショップの概要

各ワークショップのタイトル、開催日、参加者数			
グループ作業	達成すべき目標	各グループにおける課題	アイデアの生成物
■ 第1回住民ワークショップ「衣奈の将来を考える」(9月26日、住民23名)			
衣奈のまちを知る	自分たちが考えた衣奈の資源となり得るもの共有	子供たちの思い、衣奈の良いところの再認識を通じて衣奈で大切にすべきものの精査	コメントを書いたポストイットを貼った地図と模型
衣奈の将来を考える	将来の衣奈の姿	住民から出された衣奈の将来像に関する意見を種類別に整理	ポストイットに書かれた衣奈の未来と、その整理結果
■ 第2回住民ワークショップ「南海トラフ地震の被害と影響:どんな津波が襲うのか、被害は?」(11月7日、住民21名)			
2035年、衣奈の人口は?	なぜ若い世代がいないのかを明らかにする	人口問題の原因について話し合う ⇒なぜ残らないのか、新しい人を呼び込むのはダメなのか。	意見を書いたポストイットを貼った模造紙
衣奈の地震・津波被害を考える	どんな被害が発生するかにする理解	① 津波浸水被害想定への正しい理解を通して、過去・最大(M9)・実際考えられる浸水ラインの決定 ② 地震津波により起こり得る課題の抽出	住民が作成した衣奈の浸水被害地図と意見を書いたポストイット
■ 第3回住民ワークショップ「衣奈のまちづくり方針を考える」(12月26日、住民14名)			
まちの被害を確認する	衣奈の被害を認識する	津波浸水ラインの投票結果に基づいた津波浸水ラインを描き、大切なもの、必要な事の検討	衣奈の宝に対する被害の地図
衣奈の重点取組課題について話し合う	衣奈の重点取組課題の深化	詳細な重点課題の取組みに関する精査	詳細な重点課題の取組を書いた模造紙

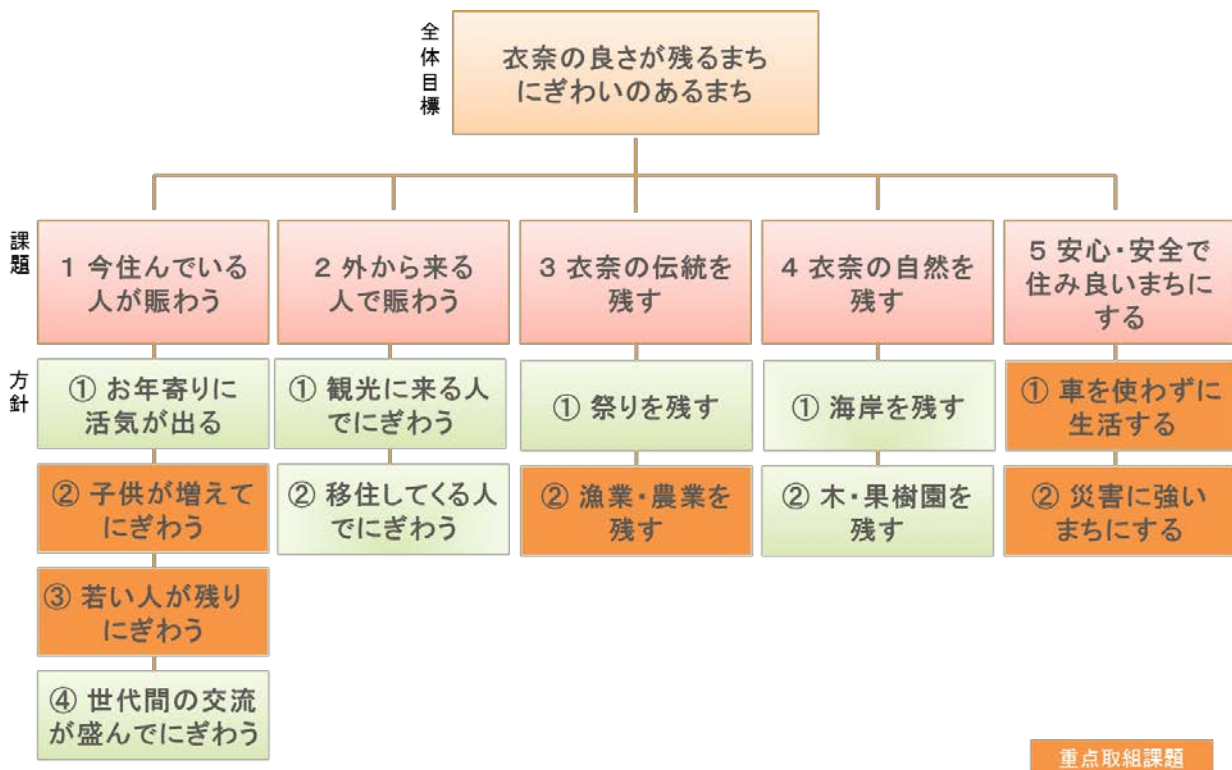


図1 衣奈まちづくり方針(案)